

麻黄湯のヒト脳高次機能と循環器系への作用(第2報)

北里研究所¹⁾, 富山医科薬科大学和漢診療学講座²⁾, 東京大学医学部生体防御機能学³⁾

○許 鳳浩¹⁾, 上馬場和夫¹⁾, 寺澤捷年²⁾, 丁 宗鐵³⁾

【緒言】我々は麻黄湯, 真武湯, 人参湯, 四逆散, 桂枝湯, 四物湯を根幹6 処方として, 視覚誘発電位(VEP), 随伴陰性変動(CNV)及び循環動態に対する影響等を検討してきたが, 中でも麻黄湯は循環動態を興奮させる作用があり, CNV面積の低下, VEP潜時の延長等の効果が観察された。また, 麻黄湯は麻黄が配合される処方の基本となると考えられるので, 今回, 更に麻黄湯一抜き処方の作用及び麻黄湯の構成生薬である麻黄, 桂枝, 杏仁, 甘草を単独投与する場合, 上記各パラメータへの影響を検討した。

【対象と方法】健常成人男性8名を対象として, 各被検者に麻黄湯構成生薬を単独でブラインドにより服用させた。各生薬の服用と測定は少なくとも三日以上あけて行った。VEPは主にP100の潜時と振幅を, CNVは予告刺激後400-1000msec間のエリア面積を, 循環動態は血圧, 心拍数, 心拍出量等を比較検討した。データ解析はキッセイコムテック社のEplyzerを用い, 統計解析には各生薬の経時的差を見るため, Two-way Repeated Measures ANOVAを用いた。

【結果】麻黄は収縮期血圧, 心拍数, 心拍出量を増加させ, 総末梢抵抗を減少させる効果が観察され, 桂皮は軽度の血圧の降下傾向が観察された。杏仁には明らかな変化がみられなかった。CNVに関しては, 麻黄と桂枝は早期に増加した後, 減少したことが観察された。桂枝は麻黄の変化より小さかった。甘草, 杏仁は一過的CNV面積の減少効果が見られた。VEPでは, 麻黄, 桂皮は潜時の延長傾向が見られたが, 杏仁, 甘草は潜時短縮傾向が観察された。

【考察と結論】麻黄の循環動態への興奮作用が観察された。麻黄湯及び麻黄湯一抜き処方の去桂皮の場合でも同様な効果が得られたことから, 麻黄湯の循環動態への作用は主に麻黄によるものと考えられた。VEP, CNVにおいては, 全般的に麻黄, 桂皮と杏仁, 甘草が相互補助し, 麻黄湯全体の薬理作用が程よい強さでコントロールされたものと推測できた。麻黄湯は別名還魂湯と呼ばれ, 中枢への賦活作用が期待されている。